

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【公表番号】特表2006-500333(P2006-500333A)

【公表日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2006-001

【出願番号】特願2004-524294(P2004-524294)

【国際特許分類】

<b>A 6 1 K</b>	<b>47/48</b>	<b>(2006.01)</b>
<b>A 6 1 P</b>	<b>31/00</b>	<b>(2006.01)</b>
<b>A 6 1 P</b>	<b>35/00</b>	<b>(2006.01)</b>
<b>A 6 1 P</b>	<b>37/06</b>	<b>(2006.01)</b>
<b>C 0 7 K</b>	<b>5/00</b>	<b>(2006.01)</b>
<b>C 0 7 K</b>	<b>7/00</b>	<b>(2006.01)</b>
<b>C 0 7 K</b>	<b>16/28</b>	<b>(2006.01)</b>
<b>A 6 1 K</b>	<b>38/00</b>	<b>(2006.01)</b>

【F I】

A 6 1 K	47/48	
A 6 1 P	31/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/06	
C 0 7 K	5/00	Z N A
C 0 7 K	7/00	
C 0 7 K	16/28	
A 6 1 K	37/02	

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月28日(2006.7.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

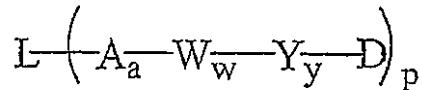
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式Iaの化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物

【化1】



Ia

[上式中、

L-は、リガンド単位であり；

-A-は、ストレッチャー単位であり；

aは、0または1であり；

-W-はそれぞれ独立に、アミノ酸単位であり；

-Y-は、スペーサー単位であり；

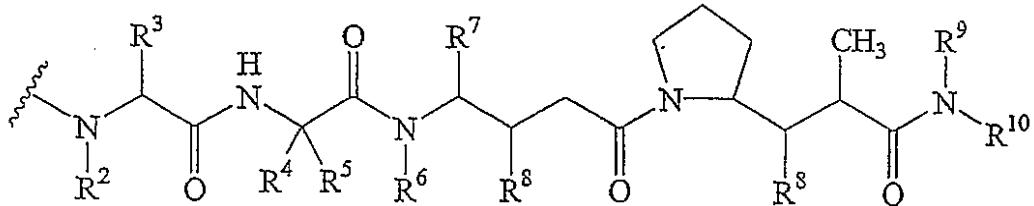
wは、0から12までの範囲の整数であり；

yは、0、1または2であり；

pは、1から20までの範囲であり；

-Dは、式

【化2】



の薬物単位である

(上式中、各位置で独立に、

R<sup>2</sup>は、-Hおよび-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキルから選択され；

R<sup>3</sup>は、-H、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環、-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル)、-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環)、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環および-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環)から選択され；

R<sup>4</sup>は、-H、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環、-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル)、-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環)、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環および-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環)から選択され；R<sup>5</sup>は、-Hおよび-メチルから選択され；またはR<sup>4</sup>およびR<sup>5</sup>は一緒にになって、式-(CR<sup>a</sup>R<sup>b</sup>)<sub>n</sub>-(ここで、R<sup>a</sup>およびR<sup>b</sup>は独立に、-H、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキルおよび-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環から選択され、nは、2、3、4、5および6から選択される)を有し、それらが結合している炭素原子と共に環を形成し；

R<sup>6</sup>は、-Hおよび-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキルから選択され；

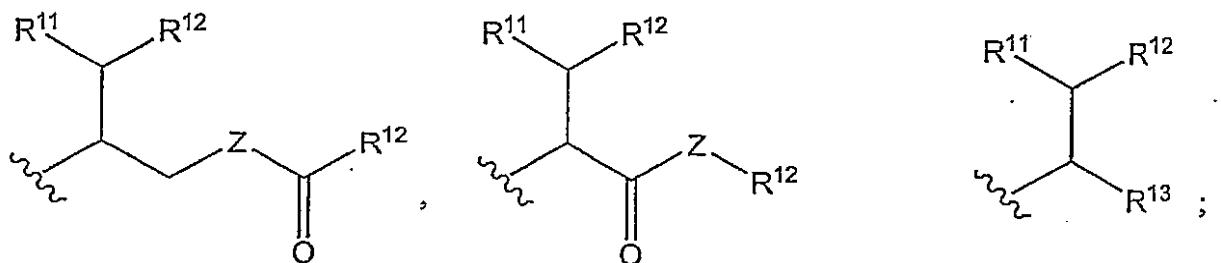
R<sup>7</sup>は、-H、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環、-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル)、-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環)、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環および-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環)から選択され；

R<sup>8</sup>はそれぞれ独立に、-H、-OH、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環および-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル)から選択され；

R<sup>9</sup>は、-Hおよび-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキルから選択され；

R<sup>10</sup>は、

【化3】



から選択され；

Zは、-O-、-S-、-NH-または-N(R<sup>14</sup>)-であり；

R<sup>11</sup>は、-H、-OH、-NH<sub>2</sub>、-NHR<sup>14</sup>、-N(R<sup>14</sup>)<sub>2</sub>、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環、-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル)、-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環)、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環および-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環)から選択されるか；またはR<sup>11</sup>は、結合している炭素原子と共にカルボニル単位(C=O)を形成する酸素原子であり、この炭素原子の上に位置する水素原子は、(C=O)二重結合中の結合の一方に置き換えられており；

R<sup>12</sup>はそれぞれ独立に、-アリールおよび-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環から選択され；

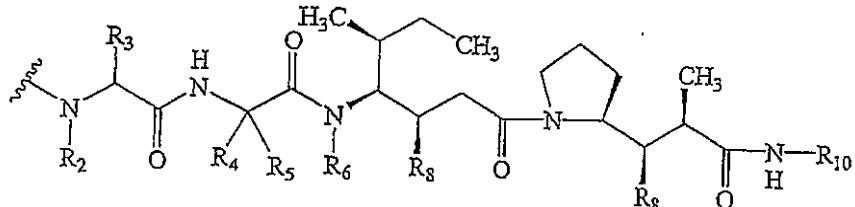
R<sup>13</sup>は、-H、-OH、-NH<sub>2</sub>、-NHR<sup>14</sup>、-N(R<sup>14</sup>)<sub>2</sub>、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環、-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル)、-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素

環)、 $C_3 \sim C_8$ 複素環および $-C_1 \sim C_8$ アルキル- $(C_3 \sim C_8$ 複素環)から選択され； $R^{14}$ はそれぞれ独立に、-Hまたは $-C_1 \sim C_8$ アルキルである)]。

## 【請求項2】

-Dが、下記構造を有する薬物単位またはその薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物である、請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物

【化 4】



「上式中、各位置で独立に、

$R^2$  は、-H および -メチルから選択され:

$R^3$  は、-H、-メチルおよび-イソプロピルから選択され：

$R^4$  は、-H および -メチルから選択され:

$R^5$ は、-イソプロピル、-イソブチル、-s-ブチル、-メチルおよび-t-ブチルから選択されるか、または $R^4$ および $R^5$ は一緒にあって、式-( $CR^aR^b$ )<sub>n</sub>-(ここで、 $R^a$ および $R^b$ は独立に、-H、-C<sub>1</sub>~C<sub>8</sub>アルキルおよび-C<sub>3</sub>~C<sub>8</sub>炭素環から選択され、nは、2、3、4、5および6から選択される)を有し、それらが結合している炭素原子と共に環を形成し：

$R^6$  は、-H および -メチルから選択され

$R^8$ はそれぞれ独立に、-OH、-メトキシおよび-エトキシから選択され

R<sup>10</sup> は

### 【化 5】



から選択され；

$R^{24}$  は、H および  $-C(O)R^{25}$  から選択され；ここで、 $R^{25}$  は、 $-C_1 \sim C_8$  アルキル、 $-C_3 \sim C_8$  炭素環、 $-アリール$ 、 $-C_1 \sim C_8$  アルキル-アリール、 $-C_1 \sim C_8$  アルキル- $(C_3 \sim C_8$  炭素環)、 $-C_3 \sim C_8$  複素環および $-C_1 \sim C_8$  アルキル- $(C_3 \sim C_8$  複素環)から選択され；

$Z$ は、 $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-OC(O)-$ 、 $-NHC(O)-$ 、 $-NR^{2,8}C(O)-$ であり；ここで、 $R^{2,8}$ は、 $-H$ および $-C_1-C_8$ アルキルから選択され：

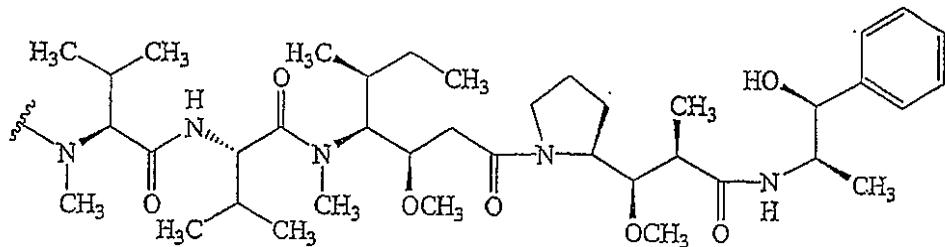
$n$ は、0または1であり：

$R^{27}$  は、nが0である場合には、-H、-N<sub>3</sub>、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環、-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環)、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環および-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環)から選択され； $R^{27}$  は、nが1である場合には、-H、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環、-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-アリール、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>炭素環)、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環および-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>複素環)から選択される]。

### 【請求項3】

## -D が、構造

## 【化6】



を有する薬物単位である、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項4】

前記リガンド単位が、抗体単位である、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項5】

前記抗体単位が、モノクローナル抗体単位である、請求項4に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

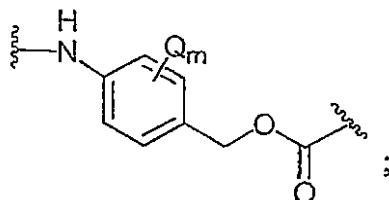
## 【請求項6】

前記モノクローナル抗体単位が、Lewis Y、CD30またはCD70に結合する、請求項5に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項7】

-Y<sub>y</sub>-が、

## 【化7】



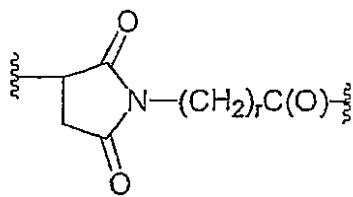
であり；

Qが、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル、-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキル)、-ハロゲン、-ニトロおよび-シアノから選択され；mは、0～4の範囲の整数であり、ここで、-Y<sub>y</sub>-のアミノ末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-Y<sub>y</sub>-のカルボキシル末端は、薬物単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項8】

-A-が、

## 【化8】



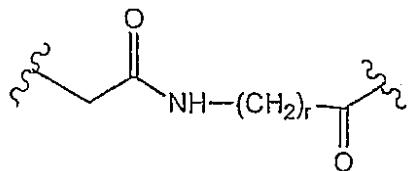
であり；

rが、1～10の範囲の整数であり、ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のスクシンイミド末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項9】

-A-が、

## 【化9】



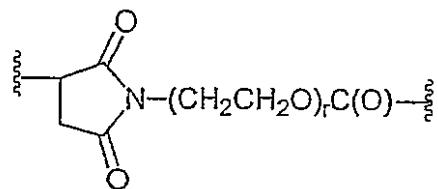
であり；

rが、1～10の範囲の整数であり、ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のアミドメチル末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できるは塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項10】

-A-が、

## 【化10】



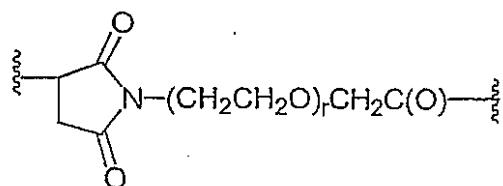
であり；

rが、1～10の範囲の整数であり、ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のスクシンイミド末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項11】

-A-が、

## 【化11】



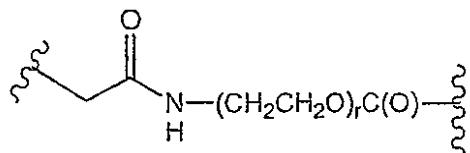
であり；

rが、1～10の範囲の整数であり、ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のスクシンイミド末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項12】

-A-が、

## 【化12】



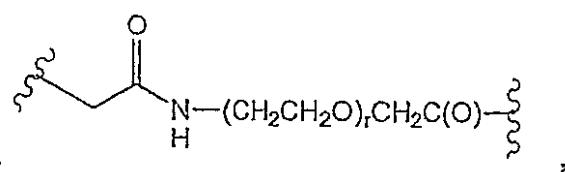
であり；

rが、1～10の範囲の整数であり、ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のアミドメチル末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項13】

-A-が、

## 【化13】



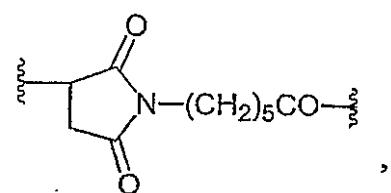
であり；

ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のアミドメチル末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項14】

-A-が、

## 【化14】



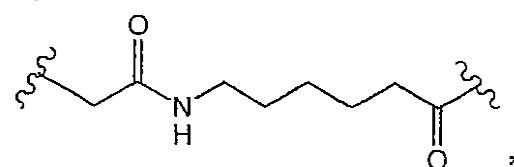
であり；

ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のスクシンイミド末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項8に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項15】

-A-が、

## 【化15】



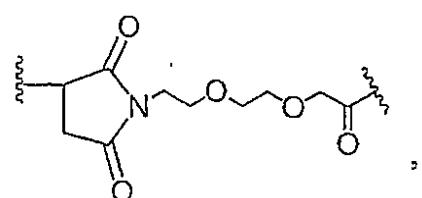
であり；

ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のアミドメチル末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項9に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項16】

-A-が、

## 【化16】



であり；

ここで、-A-のカルボニル末端は、アミノ酸単位と共に結合を形成し、-A-のスクシンイミド末端は、リガンド単位と共に結合を形成する、請求項11に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項17】

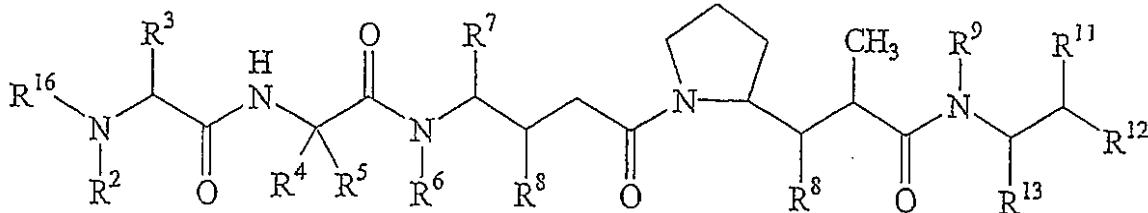
-Ww-が、-フェニルアラニン-リシン-であるか、または-Ww-が、-バリン-シトルリン-で

あり；ここで、 $-W_w$ -のアミノ末端は、 $a$ が1である場合にはストレッチャー単位と共に、または $a$ が0である場合にはリガンド単位と共に結合を形成し、 $-W_w$ -のC末端は、 $y$ が1または2である場合にはスペーサー単位と共に、および $y$ が0である場合には薬物単位と共に結合を形成する、請求項1に記載の化合物またはその化合物の薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項18】

下式の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物

## 【化17】



[上式中、それぞれの位置で独立に、

$R^2$ は、-Hおよび $-C_1 \sim C_8$ アルキルから選択され；

$R^3$ は、-H、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル、 $-C_3 \sim C_8$ 炭素環、 $-O-(C_1 \sim C_8$ アルコキシ)、-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 炭素環)、 $-C_3 \sim C_8$ 複素環および $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 複素環)から選択され、

$R^4$ は、-H、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル、 $-C_3 \sim C_8$ 炭素環、 $-O-(C_1 \sim C_8$ アルコキシ)、-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 炭素環)、 $-C_3 \sim C_8$ 複素環および $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 複素環)から選択され； $R^5$ は、-Hおよび-メチルから選択され；または $R^4$ および $R^5$ は一緒にになって、式 $-(CR^aR^b)_n$ -(ここで、 $R^a$ および $R^b$ は独立に、-H、 $-C_1 \sim C_8$ アルキルおよび $-C_3 \sim C_8$ 炭素環から選択され、nは、2、3、4、5および6から選択される)を有し、それらが結合している炭素原子と共に環を形成し；

$R^6$ は、-Hおよび $-C_1 \sim C_8$ アルキルから選択され；

$R^7$ は、-H、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル、 $-C_3 \sim C_8$ 炭素環、 $-O-(C_1 \sim C_8$ アルコキシ)、-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 炭素環)、 $-C_3 \sim C_8$ 複素環および $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 複素環)から選択され；

$R^8$ はそれぞれ独立に、-H、-OH、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル、 $-C_3 \sim C_8$ 炭素環および $-O-(C_1 \sim C_8$ アルコキシ)から選択され；

$R^9$ は、-Hおよび $-C_1 \sim C_8$ アルキルから選択され；

$R^{11}$ は、-H、-OH、-NH<sub>2</sub>、-NHR<sup>14</sup>、-N(R<sup>14</sup>)<sub>2</sub>、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル、 $-C_3 \sim C_8$ 炭素環、 $-O-(C_1 \sim C_8$ アルキル)、-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 炭素環)、 $-C_3 \sim C_8$ 複素環および $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 複素環)から選択されるか；または $R^{11}$ は、結合している炭素原子と共にカルボニル単位(C=O)を形成する酸素原子であり、この炭素原子の上に位置する水素原子は、(C=O)二重結合中の結合の一方に置き換えられており；

$R^{12}$ はそれぞれ独立に、-アリールおよび $-C_3 \sim C_8$ 複素環から選択され；

$R^{13}$ は、-H、-OH、-NH<sub>2</sub>、-NHR<sup>14</sup>、-N(R<sup>14</sup>)<sub>2</sub>、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル、 $-C_3 \sim C_8$ 炭素環、 $-O-(C_1 \sim C_8$ アルコキシ)、-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-アリール、 $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 炭素環)、 $-C_3 \sim C_8$ 複素環および $-C_1 \sim C_8$ アルキル-( $C_3 \sim C_8$ 複素環)から選択され；

$R^{14}$ はそれぞれ独立に、-Hまたは $-C_1 \sim C_8$ アルキルであり；

$R^{16}$ は、-Y<sub>y</sub>-W<sub>w</sub>-A'であり、

ここで、-W-はそれぞれ独立に、アミノ酸単位であり；

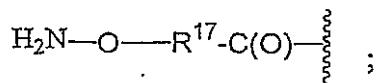
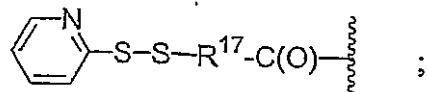
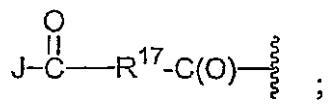
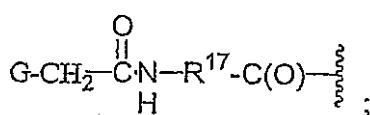
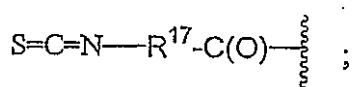
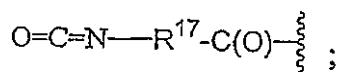
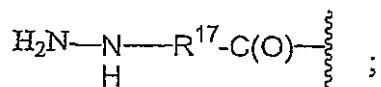
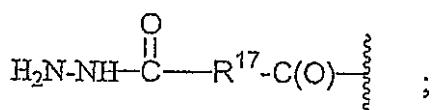
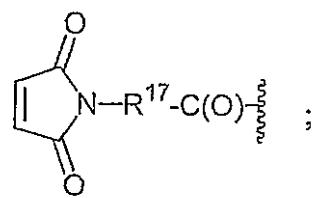
-Y-は、スペーサー単位であり；

wは、0から12までの範囲の整数であり；

yは、0、1または2であり；

-A'は、

## 【化18】



から選択される

(上式中、

Gは、-Cl、-Br、-I、-O-メシリルおよび-O-トシリルから選択され；

Jは、-Cl、-Br、-I、-F、-OH、-O-N-スクシンイミド、-O-(4-ニトロフェニル)、-O-ペニタフルオロフェニル、-O-テトラフルオロフェニルおよび-O-C(O)-OR<sup>18</sup>から選択され；

R<sup>17</sup>は、-C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキレン-、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>カルボシクロ-、-O-(C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルコキシ)-、-アリーレン-、-C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキレン-アリーレン-、-アリーレン-C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキレン-、-C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキレン-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>カルボシクロ)-、-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>カルボシクロ)-C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキレン-、-C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>ヘテロシクロ-、-C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキレン-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>ヘテロシクロ)-、-(C<sub>3</sub>～C<sub>8</sub>ヘテロシクロ)-C<sub>1</sub>～C<sub>10</sub>アルキレン-、-(CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>O)<sub>r</sub>-および-(CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>O)<sub>r</sub>-CH<sub>2</sub>-から選択され；

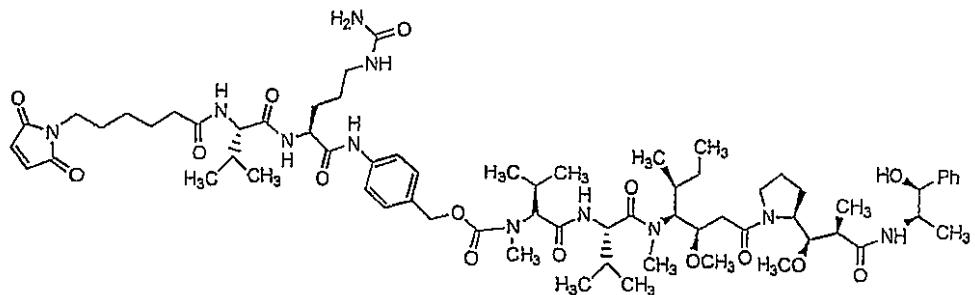
rは、1～10の範囲の整数であり；

R<sup>18</sup>は、-C<sub>1</sub>～C<sub>8</sub>アルキルまたは-アリールである)】。

## 【請求項19】

構造

## 【化19】

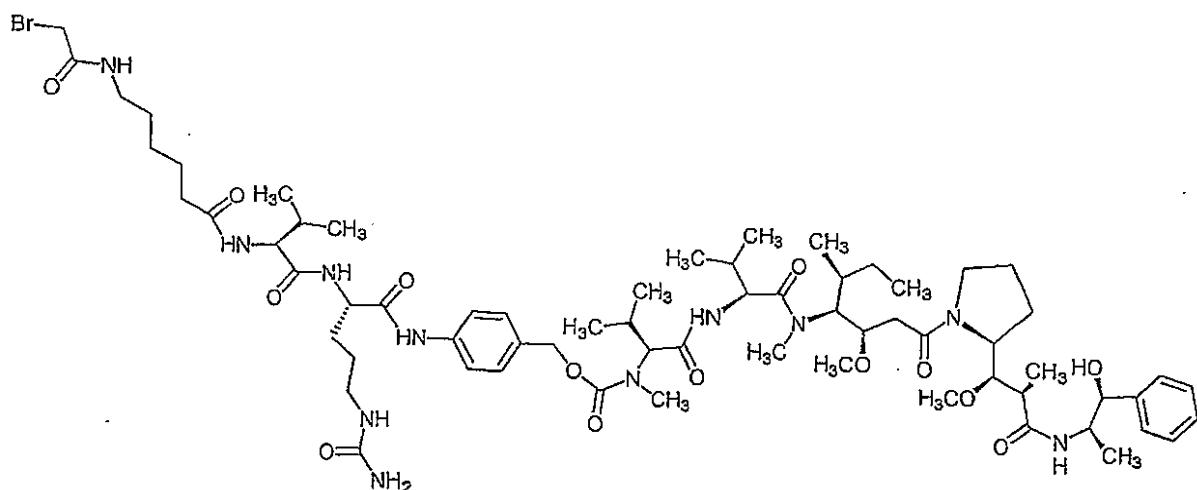


を有する請求項18に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項20】

構造

【化20】

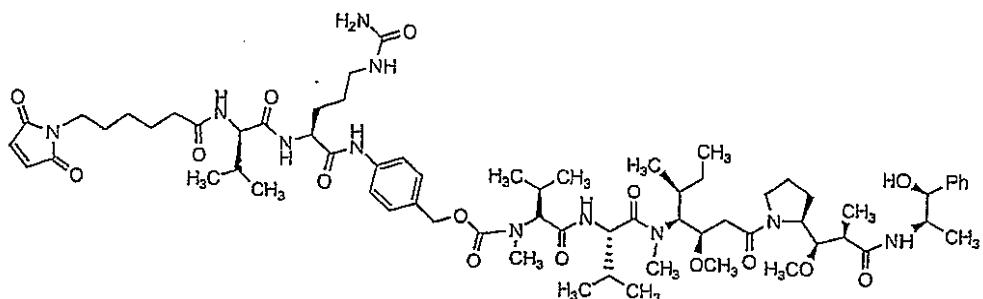


を有する請求項18に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

【請求項21】

構造

【化21】

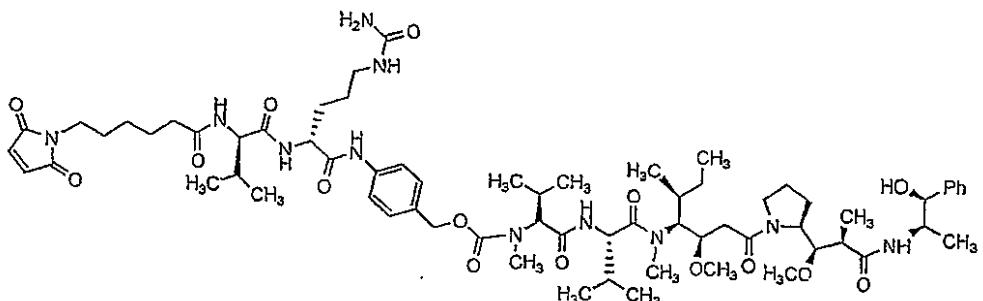


を有する請求項18に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

【請求項22】

構造

【化22】

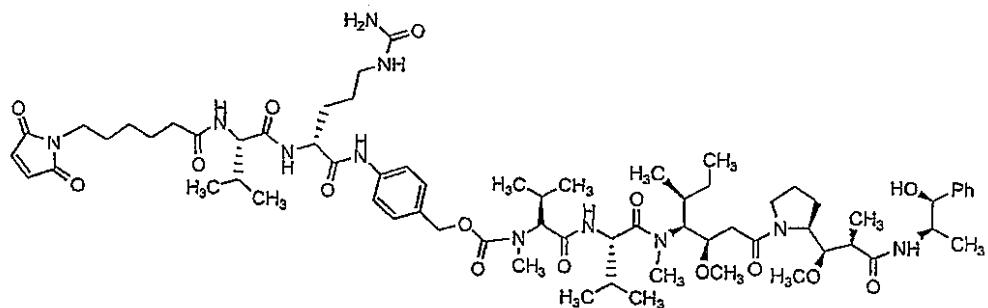


を有する請求項18に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

【請求項23】

構造

## 【化23】

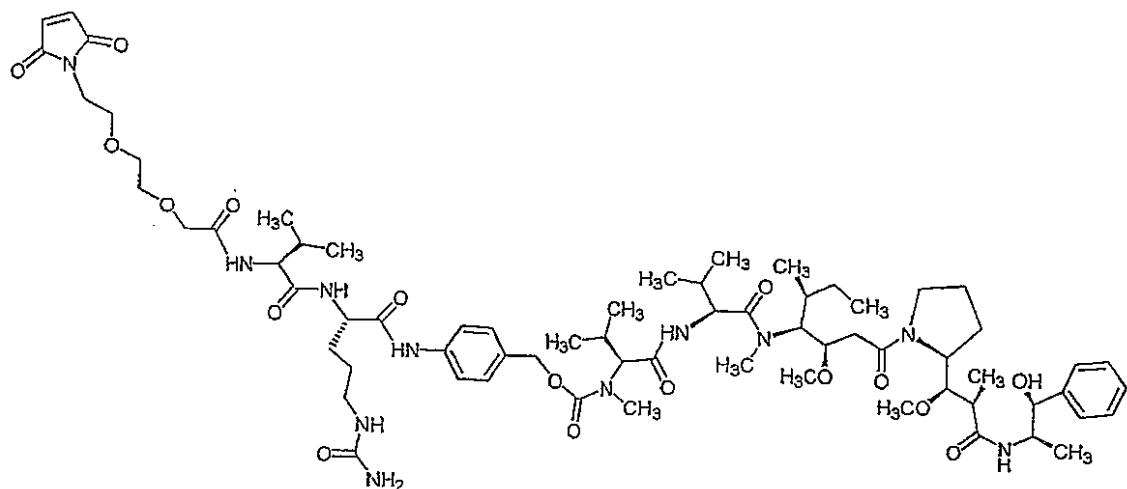


を有する請求項18に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項24】

構造

## 【化24】

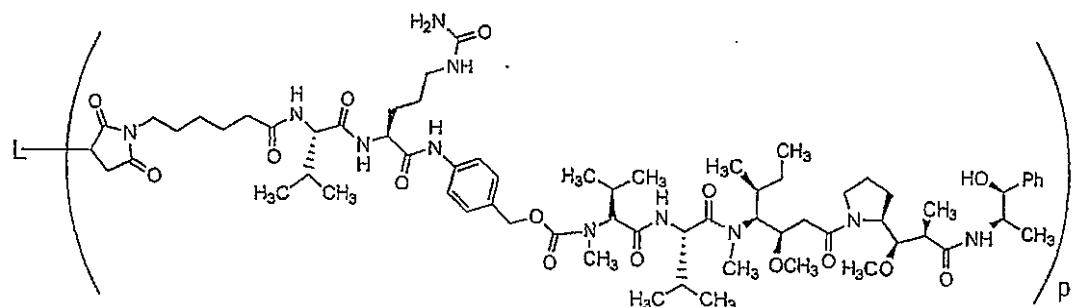


を有する請求項18に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項25】

構造

## 【化25】

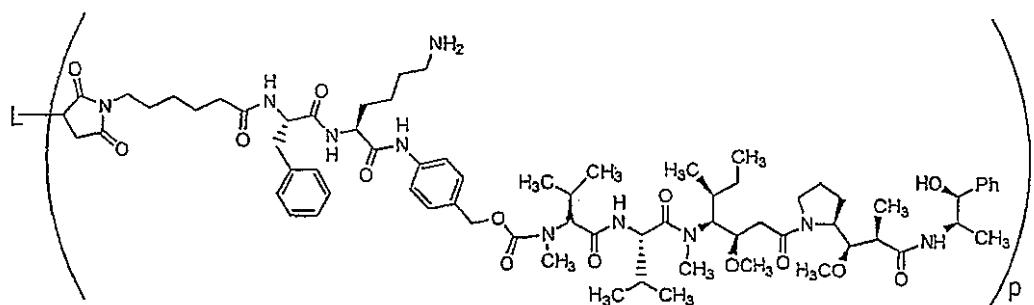


[上式中、pは、1から20の範囲である]を有する請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項26】

構造

## 【化26】

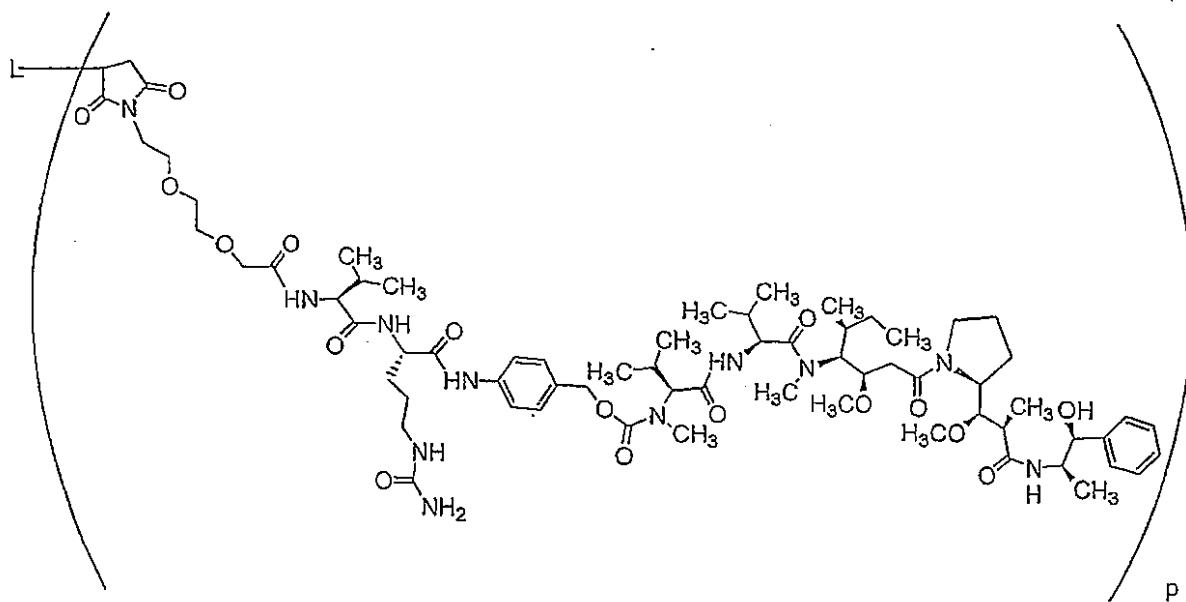


[上式中、pは、1から20の範囲である]を有する請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項27】

構造

## 【化27】

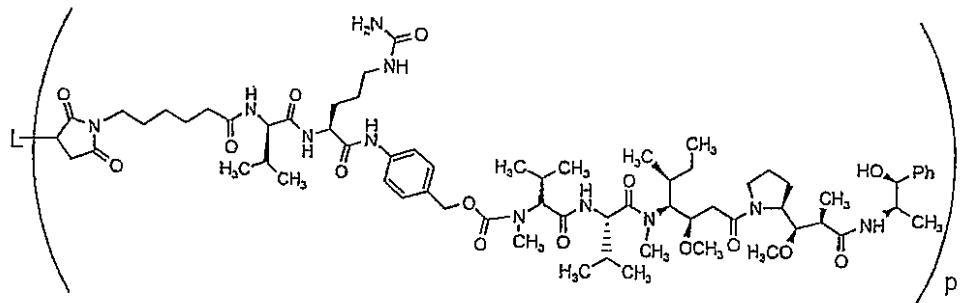


[上式中、pは、1から20の範囲である]を有する請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項28】

構造

## 【化28】

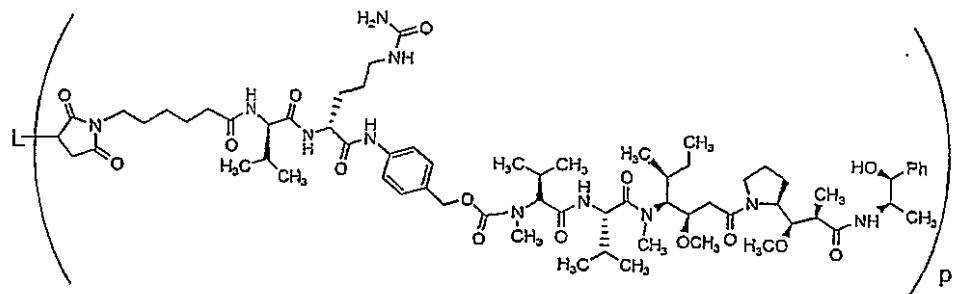


[上式中、pは、1から20の範囲である]を有する請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項29】

構造

## 【化29】

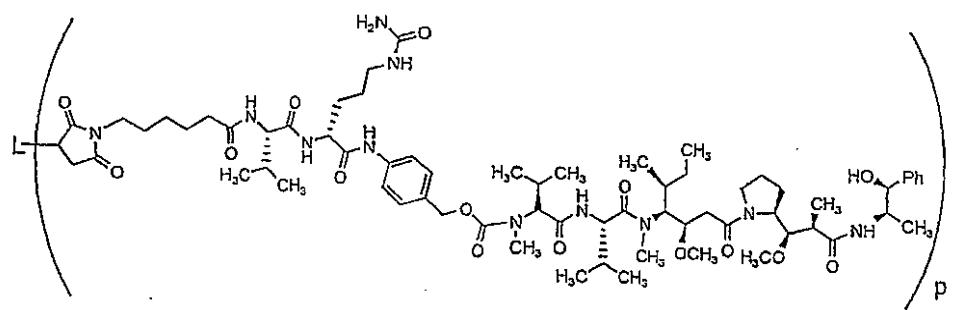


[上式中、pは、1から20の範囲である]を有する請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項30】

構造

## 【化30】



[上式中、pは、1から20の範囲である]を有する請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

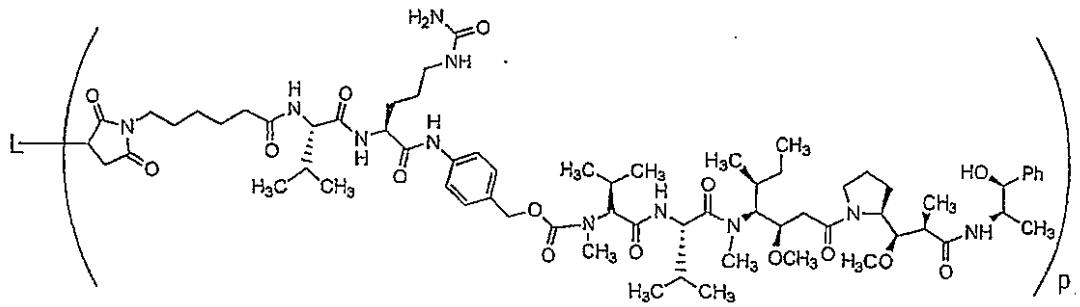
## 【請求項31】

pが、7から9まで、3から5まで、または1から3までの範囲である、請求項25～30のいずれか一項に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項32】

式

## 【化31】



[上式中、pは、7から9、3から5または1から3の範囲であり、LはLewis Y、CD20またはCD30に結合する抗体である]を有する請求項1に記載の化合物または薬学的に許容できるその塩もしくは溶媒和物。

## 【請求項33】

有効量の、請求項1～32のいずれか一項に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物、ならびに薬学的に許容できる担体または賦形剤を含有する、組成物。

## 【請求項34】

治療的有効量である請求項1～32のいずれか一項に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物の、動物の腫瘍細胞または癌細胞の死滅またはその増殖の阻害の

ための医薬組成物の調製における使用。

【請求項 35】

有効量である請求項1~32のいずれか一項に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物の、動物の癌を治療するための薬剤の調製における使用。

【請求項 36】

有効量である請求項1~32のいずれか一項に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物の、動物の自己免疫疾患を治療するための薬剤の調製における使用。

【請求項 37】

有効量である請求項1~32のいずれか一項に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物の、動物の感染症を治療するための薬剤の調製における使用。

【請求項 38】

前記薬剤および有効量の抗癌剤は、動物に投与されるものである、請求項35に記載の使用。

【請求項 39】

前記薬剤および有効量の免疫抑制剤は、動物に投与されるものである、請求項36に記載の使用。

【請求項 40】

前記医薬および有効量の抗感染症薬は、動物に投与されるものである、請求項37に記載の使用。

【請求項 41】

単離または精製された形態である、請求項1~32のいずれか一項に記載の化合物または薬学的に許容できる塩もしくは溶媒和物。